

ライフデザインノートの開発 ―キャリア形成科目共通テキスト作成の試み―

<概要>

1) 人文学部キャリア形成科目、テキスト作成の試み

人文学部 DP・CP に沿ったキャリア教育を平準化しさらに推進するため、先行論文や 2017 年以降学内で実施した履修生を対象に行った心理統計分散分析の成果をまとめた。また、キャリア形成共通テキストを作成する前段階として、複数の先行研究成果のメタ分析の統合によりワークブックの製本を試みた。

結果、『ライフ・ソリューションをはじめよう わたしを育てるキャリアデザイン』（新居田、2021）が完成し、2021 年前期から「キャリア形成入門 I」にて試用を開始している。また、人文学部の教員の方々からもご意見をうかがうべく適宜配布を行う。

2) キャリア教育の状況と目的

日本のキャリア教育を学術的な観点から概観した書籍は、21 世紀の始まりと共に増え続けており、特に教育学、社会学、経営学、心理学、教育工学等の専門家が新学習指導要領に対応した専門書は多数ある。本研究では、本学の学生に不足する能力開発のために、伝統的理論だけでなく最新の理論やオンライン授業実践を含め、近年の情勢を捉えた成果を盛り込んだ。本学の学生が課題とするコミュニケーション力の形成プロセスをサポートし、キャリアを自ら育てるライフ・ソリューションの可能性を高める意義を持つ。加えて、共通テキストの活用による指導の標準化のため、2021 年度より試験的活用を行い、最終的なテキストの出版のたたき台とする。

3) テキストの概要（目次）

Part 1 自分を知る

- Chapter 1 キャリアとは何か
 - Column ZOOM による遠隔授業を受講するにあたって
- Chapter 2 大学生活を研究する
- Chapter 3 社会で求められる能力
- Chapter 4 自分に目を向ける（自己理解）
- Chapter 5 多様な価値観

Part 2 コミュニケーション

- Chapter 1 コミュニケーションスキル
- Chapter 2 聴く力
- Chapter 3 ダイバーシティ
- Chapter 4 アサーティブなかわり方
- Chapter 5 ロジカルシンキング
 - Column パーソナルスペースの中の社会的距離

Part 3 異なる知性とのコラボレーション

- Chapter 1 さまざまな意見交換法
- Chapter 2 チームワーク
- Chapter 3 モチベーション理論
- Chapter 4 メンタルヘルス（こころの健康）
- Chapter 5 ライフ・ソリューションに活かすキャリアデザイン

4) 学生のポテンシャルを引き出すために（研究成果）

- ・自尊心の低下
他人と比較した結果、短所にばかり焦点化する。
対応例) 多様性の進展。常識が常識でなくなる時代。認め合いながら自分があるべき道を探る。
- ・他者評価を過度に気にする
個人の能力は高いにもかかわらず、表出させることを避ける（褒められることは悪目立ちになる）
対策例) 冒頭から格差を生じさせず、クラス全体の努力を認め、ほめて育てる
- ・承認欲求、教員との関係構築
教員に対して、過度に干渉されたくないが、放任も嫌う
対策例) 教員から声をかける。悪いことは悪いと注意する。教員が間違ったら謝る。
- ・現実的で合理性が高い
前例踏襲や指示待ちの傾向が強いが、抽象的な説明は嫌う
対策例) 納得すさえすれば、主体的な想像力・創造力につながりやすい。
- ・計画力、自律性が弱い傾向
先の遠い報酬より、目先の報酬に目が行きがち。小さな成功体験（報酬）でスモールステップをつなぐ。

<まとめ>

青年期の不安定な発達期は、大きく成長するチャンスであることはいままでもない。大学不適應、退学、不必要なモラトリアムにつなげないためにも、キャリア教育ができることを研究し公表していくことが、重要である。今年度、ご採択頂いた研究推進費によって実現した大学生意識調査の結果から学生の行動特性をつかみ、多くの先行研究の知見を応用しながら教育プログラムに反映させていく足がかりとなったことに感謝したい。社会経済の急速な変化に業界業種に固定されることなく対応していくバウンダリーレス・キャリアの概念を身につけ、さらに高いジェネリックスキルの向上につなげるキャリア教育が必要である。

<参考文献>

- Briscoe, J.P., & Hall, D.T. (2006) "The interplay of boundaryless and protean careers: Combinations and implications," *Journal of Vocational Behavior*, 69, pp. 4-18
- ベネッセ i-career(2021) 2020 年度人文学部 1 年次 / 3 年次 GPS-Academic 結果報告とそれに基づく教育課程改善への提案
- Mueller, C. M., & Dweck, C. S. (1998). Praise for intelligence can undermine children's motivation and performance. *Journal of Personality and Social Psychology*, 75(1), 33-52.
- 新居田久美子 三谷 周子 平野 園恵 (2021) 社会人基礎力からみた大学キャリア教育の効果と課題 — 人生 100 年時代の社会的レリバンス 神戸学院大学教育開発ジャーナル, 11, 1-11
- 新居田久美子 (2019) e ポートフォリオを活用した大学生のキャリア形成学習プログラムの開発研究